

西光寺だより

第一一〇号 令和元年 十月一日発行

九月は行事の多い月でありました。在家報恩講・大谷本廟墓参・仏教婦人会報恩講・秋季永代経法要などの行事をお迎えしたことであります。

親鸞聖人のご法事を偲ぶ報恩講。在家報恩講の各ご自宅でのお勤め、そして仏教婦人会報恩講では、ご婦人方のみでお参り致しました。

毎年恒例行事ではありますが、ご婦人同士でのつながりやご縁を目的の当たりになりますと、親鸞聖人が開いてくださった浄土真宗があったからこそ、こうして皆様と出会うことが出来ているんだと、深いご縁の中特別な思いで過ごさせていただきました。

今月からもう十月であります。私自身といたしましては、約十五カ寺の各寺院での報恩講法要が始まり、それぞれの寺院に出勤します。毎年恒例行事ではありますが、特別な思いでお勤めをし、十一月の西光寺報恩講法要に繋がりたいと引き締める思いであります。

皆様におかれましても季節の変わり目。お身体に気をつけていただきたいと切に思うことであります。

そして先月のクイズの答えですが、すべてdでありました。Q4の解説だけ致します。

浄土真宗では「盂蘭盆会」を「歓喜会」とも言います。

父母やご先祖の之恩を思わせていただくことをご縁に、この私だけではなく、わが父母・ご先祖をも、ひいてはあらゆる念仏の人々を救いとして捨てないという南無阿弥陀仏の如来さまが、私に届いてくださっていることを喜んできたということで、そう呼ばれています。

◆先月の報告◆

①九月十二日(木) 西光寺におきまして来年の令和二年二月十二日に撰津十二日講御消息披露法要の行事にあたっています。その法要に必要なお道具を、総代様二名と住職で前の当番の寺院に取りに行ってきました。

西光寺は八年ごとに迎える行事であり、今からおよそ四五〇年前、天下統一を目指す織田信長から大坂石山本願寺を護るために戦った撰津国の僧侶・

門徒達を偲び、浄土真宗のみ教えを伝えてゆく法要であります。それ以降、共に戦った法縁のある寺院を会所として相続してきたものであります。来年の令和二年二月十二日、また近くなるご報告させていただきますが、皆様と共に厳修させていただきたいので、どうぞよろしくお願い致します。



このお道具を軽トラックで運んでまいりました。
総代様、ありがとうございます。

②九月十八日(水)みのり講・穂積講の皆さんで大谷本廟墓参を行いました。年に一度の皆さんでの墓参、墓参を終えるたびに今のいのちと皆さんで行けることに感謝であります。駐車場が使えなかつたので非常にご不便をおかけしました。申し訳ございません。



③九月二十五日(水)西光寺本堂にて十三時より仏教婦人会報恩講を厳修致しました。皆さんで正信偈のお勤めをし、お菓子を食べながらの休憩をはさみ、婦人会会長より研修の内容を皆さんで報告し、研鑽致しました。私自身も非常に勉強になり、相手が変わると伝わり方が変わることには驚いたことでもあります。また皆さんとご一緒に学べたらと思う一日でありました。



④九月二十八日(土)西光寺本堂にて秋季永代経法要を厳修致しました。たくさんの方々にお参りいただき、西光寺が永きにわたり代々受け継がれてきたご縁と先人への思いを感じることでありました。

また、二回目のご法話でありました、高島先生。自分は何事においても悪くなく正しいことをしている善人だと思っている。間違っているのは他の誰かと指差してしまう自己中心的な考え。だからこそ、やさしく向き合って下さる阿弥陀さまがいてくださる、そんな大切なお話でありました。 合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

◆十一月・十二月の行事◆

・十一月 二十三日(土)

報恩講法要

午後二時・七時

西光寺本堂

◎御法話 明光寺住職 加藤 龍行 師

・十二月 九日(月)〜十日(火)

茨木東組念仏奉仕団

京都西本願寺



昼・夜と皆さんでお勤め致しました。

